

「脂質異常症」について

（動脈硬化と脂質の関係）

心筋梗塞などの心血管系疾患と、脳梗塞を中心とした脳血管障害による死亡は、ガンと並んで日本人の死因の大きな位置を占め、死因の約 30%に及んでいます。これらの動脈硬化による疾患は、わが国では高齢化に向けてますますの増加が予想されており、その対策が重要視されています。長年の研究により、動脈硬化性の疾患において、最も重要な危険因子の一つが高コレステロール血症であることがわかっています。高コレステロール血症を改善する事でこれらの病気にかかる危険性を少なくする事が出来るのです。

（脂質異常症の診断基準）

では、どのくらいまでコレステロールを下げる事が必要なのでしょうか？これまで日本動脈硬化学会では「高脂血症」の診断基準として、総コレステロール 220mg/dl 以上、トリグリセリド（いわゆる中性脂肪）150mg/dl 以上、HDL コレステロール（いわゆる善玉コレステロール）40mg/dl 未満という基準値が提唱されてきました。しかし、総コレステロール値が高くても、善玉コレステロールも高くあまり問題のない場合や、逆に総コレステロール値が低くても善玉コレステロールが低く危険性が高い場合もあり、最近では総コレステロール値ではなく、診断基準として LDL コレステロール（いわゆる悪玉コレステロール）が採用されるようになりました。脂質が低いことが悪い場合もあるため「高脂血症」という呼び方が「脂質異常症」という呼び方に変わるようになりました。LDL コレステロールは基準が 140mg/dl とされています。

（脂質異常症の治療目標値）

脂質異常症の治療の目標値は各個人によって大きく異なります。糖尿病や高血圧、肥満などの他の動脈硬化の危険因子を合併して持っておられる方は、LDL(悪玉)コレステロールの目標値がかなり低く(厳しく)なります。そのような危険因子が少ない方の目標値は緩めに(高く)なります。HDL(善玉)コレステロールの目標値は、すべての方で 40mg/dl 以上です。

治療において最も重要なのは、まずは禁煙や食事制限、運動などの生活習慣の改善です。これらで改善しない場合に、はじめてお薬を飲んでいただくことになります。お薬には色々な種類があり、主治医が各患者様にあった薬剤を選択する事になります。

脂質異常症について詳しくお知りになりたい方は、内科担当医までご相談下さい。

(文責 小倉)